

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

松ヶ江北 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までと同程度の結果で、全体的に更に努力を要する状況である。 ・「読むこと」に関する問題に比べ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関する問題の正答率が低くなっている。
	よくできた問題	漢字を正しく読んだり書いたりする問題。
	努力が必要な問題	故事成語の意味や使い方に関する問題。情景描写の効果を捉える問題。国語辞典を使って言葉の意味と使い方を理解する問題。
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に更に努力を要する状況であるが、昨年度までの結果より向上している。 ・「話すこと・聞くこと」に関する問題に比べ、「読むこと」、「書くこと」に関する問題の正答率が低くなっている。 ・短答式の問題に比べ、選択式、記述式の問題の正答率が低くなっている。
	よくできた問題	筆者が付箋にメモした内容を関係付けながら、筆者が最初にもった疑問を捉える問題。
	努力が必要な問題	分かったことや疑問に思ったことを関係付けながらまとめて書く問題。詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題。二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題。
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの結果を大きく上回り、ほとんどの問題で無回答がなくなっている。 ・「量と測定」に関する問題の正答率が若干低くなっている。
	よくできた問題	被乗数に空位のある整数の乗法の計算問題。異分母の分数の加法の計算問題。二つの数量の関係を口、△などの記号を用いて式に表す問題。
	努力が必要な問題	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関係付ける問題。円周の長さを、直径の長さをを用いて求める問題。
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの結果を大きく上回っている。 ・すべての領域において、おおむね満足な正答率となっている。
	よくできた問題	全体と部分の関係を示すのに適当なグラフを選択する問題。示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する問題。
	努力が必要な問題	示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題。

③ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると答えている児童の割合が全国平均を上回っている。また、話し合う活動もよく行っていると答えているが、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするということについては、それらができていると感じている児童の割合は全国平均を下回っている。
 ・文章を書くことについて抵抗感をもつ児童の割合は高くないが、問題の正答率は低い。自分の考えをノートに書いて整理してから説明するなどの学習機会を充実させる必要がある。
 ・授業のめあてを明確に示したり、授業の最後に振り返り活動をしたりするなどの一連の学習パターンは、今後も続けて更に定着させていくようにしたい。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・学校から出された宿題については、どの児童もしっかりと取り組んでいる。
- ・毎日1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、昨年度の本校児童や本年度の全国平均と比べて低い傾向にある。
- ・家庭学習の絶対量が少なく、学習時間のめやす、家庭学習の具体的な取り組み方の例などを示す必要がある。
- ・自分で計画を立てて学習している児童の割合も、昨年度の本校児童や本年度の全国平均と比べてかなり低く、大きな課題である。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・テレビやビデオ等の視聴時間は全国平均より少ないが、昨年度より増加しており、毎日2時間以上視聴する児童の割合が70%を超える。
- ・テレビゲーム等の時間は全国平均並みであるが、毎日4時間以上する児童の割合が20%近い。
- ・読書時間は全国平均よりは多いが、昨年度の本校児童に比べるとかなり短くなっている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 「書く」ことの習慣化・言葉の使い方を大切にした指導の充実
 - ・話し合いの際は、自分の考えをノートにメモしてから発表する。
 - ・振り返りの時間を設定し、ノートに振り返りを書く。
 - ・国語辞典をいつでも活用できるように机の横に準備しておき、調べた言葉には付箋を付ける。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用を図る。
 - ・アシストシートと過去問題を冊子にして、冬休み・春休みの宿題にする。
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・松北タイム(朝自習の時間、週3回程度)

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・冬休み・春休みの宿題(過去問題・アシストシート)
- 家庭学習時間の設定
- 家庭学習マイスター賞への応募
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取り組み等を保護者へ周知
 - ・学校通信・学校ホームページ
 - ・学級懇談会等で、結果や今後の取組等を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。